

科学委員会の体制について

知床世界自然遺産地域科学委員会の委員及び各ワーキンググループ、アドバイザーパネルの委員については、遺産登録 10 年を機に、次の 10 年を見据えた委員の若返りを図ることとして、平成 26 年度第 2 回科学委員会において委員長と事務局に一任され、以下の観点で見直しを行い新体制に移行した。

1 科学委員会

10 年間の議論を踏まえ、遺産地域の自然環境と保全管理において、科学委員会において、今後、中長期を見据えて注視すべき課題、長期モニタリング項目、分野横断的かつ総合的に議論すべき点等、今後の本会議の中心になる課題への対応に焦点をあてて委員会のスリム化、若返りを図る。

2 ワーキンググループ等

(1) エゾシカ・陸上生態系 WG

エゾシカ・陸上生態系 WG については、第 3 期知床半島エゾシカ保護管理の策定、長期的な対策の実施や継続性の確保を考慮しつつ、エゾシカの管理と植生被害と対策、捕獲の実施による植生回復の評価に焦点を当てて、平成 29 年度（第 3 期）以降の新たな体制のあり方について、梶座長を中心に検討中である。

(2) 海域 WG

海域 WG については、桜井座長を中心に海洋環境の長周期的な変動と沿岸域の生物生産など陸上生態系とのつながりに特に注目して新たな体制を検討し、平成 28 年度第 1 回 WG から新体制に移行する予定である。

(3) 河川工作物 AP

河川工作物 AP については、座長を除くすべての委員が 60 歳以上の年齢構成となり、平成 26 年度第 1 回 AP において、世代交代して新たな人材により次世代につなぐべき、との意見が出された。これを受け、継続性を確保するため中村座長は留任し、他の委員は交代することが同 AP で合意された。これを受けて、旧委員からの推薦をもとに中村座長と事務局で相談し、新委員を検討した。最終的に、河川工学、河川生態学、サケ科魚類の専門家から、この分野に精通する 40 歳代若手研究者を中心に人選し、平成 27 年度から新体制に移行した。

(4) 適正利用・エコツーリズム WG

適正利用・エコツーリズム WG については、個々の提案や課題に応じ、多様な専門性が

WG に求められることを考慮し、基本的な事項を総合的に検討する「委員」および、議論に必要な専門分野に応じて参画する「専門委員」に区分し、平成 25 年度に WG を再編した。
(なお、専門委員については、知床世界遺産地域科学委員会設置要綱第 4 条、4 に基づき、臨時委員として科学委員会にも出席を求めることが可能である。)